

事業活動と環境影響

オカムラグループの事業活動にともなうインプット・アウトプットを把握し、グループ全体で環境負荷低減を進めています。

2006年度のエコバランス

オカムラグループは、地球環境から採取した資源を活用し、製品として販売しています。製品の製造、販売、流通、回収、解体、リサイクルの過程で、資源・エネルギーを使用し廃棄物などを排出しています。オカムラグループは、事業活動にともなう環境負荷を低減するため、行動原則3R&2Aに基づく活動を実施しています。

事業の状況

2006年度の売上は、2005年度に比べ5.7%の増収となりました。

インプット

生産高は増加しましたが、2006年度の原材料の物質投入量は、2005年度に比べ0.5%減少しました。総エネルギー投入量は、2005年度に比べ1.2%減少しました。2006年度は効率生産の努力と製品構成の変化により、エネルギー生産性と原材料歩留まりが向上しています。

用水投入量は2005年度に比べ11.2%削減しました。また、原材料グリーン購入を積極的に進めた結果、原材料グリーン購入金額は、2005年度に比べて4.3%増加しています。

アウトプット

環境配慮型製品の売上高に占める比率は、2005年度に比べ4.7%増加しました。廃棄物（産業廃棄物＋一般廃棄物）排出量、汚染物質等排出量は、2005年度とほぼ同じ水準に推移しています。また、用水投入量の削減にともない、排水量は2005年度に比べ13.1%減少しています。

回収・引き取り製品量は、2005年度に比べ4.3%減少しました。また、産業廃棄物最終処分量は2005年度に比べて24.9%減少しています。

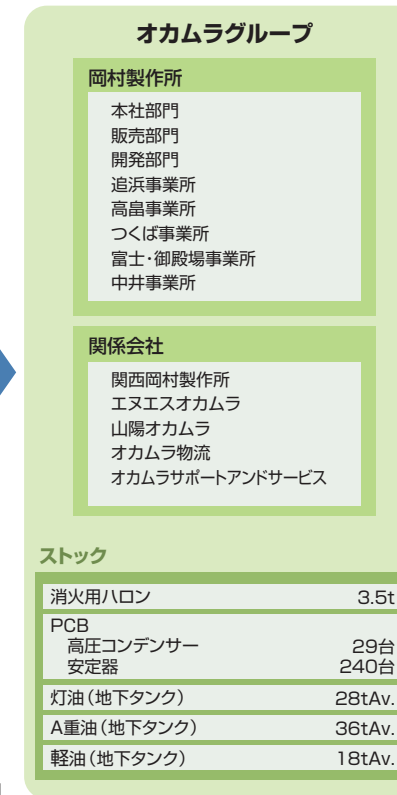
2006年度のエコバランス 審査

インプット

総エネルギー投入量	
エネルギー	
工業用・照明用・自家発電用	961,495GJ
自動車用	39,971GJ

総物質投入量	
原材料	
金属材料等	110.2千t
樹脂材料	3.1千t
木質系材料	5.9千t
その他	10.3千t
グリーン購入金額	20,698百万円
PRTR法第1種指定化学物質取扱量	200t
事務用消耗品グリーン購入金額	77百万円
引き取り製品・梱包材	11.7千t
買入れ製品・部品	13.2千t

水資源投入量	
用水	389千m ³



アウトプット

温室効果ガス排出量およびその他大気汚染物質	
温室効果ガス	46,117t-CO ₂
SO _x	2t
NO _x	14t
オゾン層破壊物質	0.3 ODP-kg

汚染物質等排出量・移動量	
PRTR法第1種指定化学物質排出・移動量	183t

製品販売量・額	
総合カタログ掲載製品などの売上重量	145千t
環境配慮型製品売上高	95,500百万円
連結売上高	213,813百万円

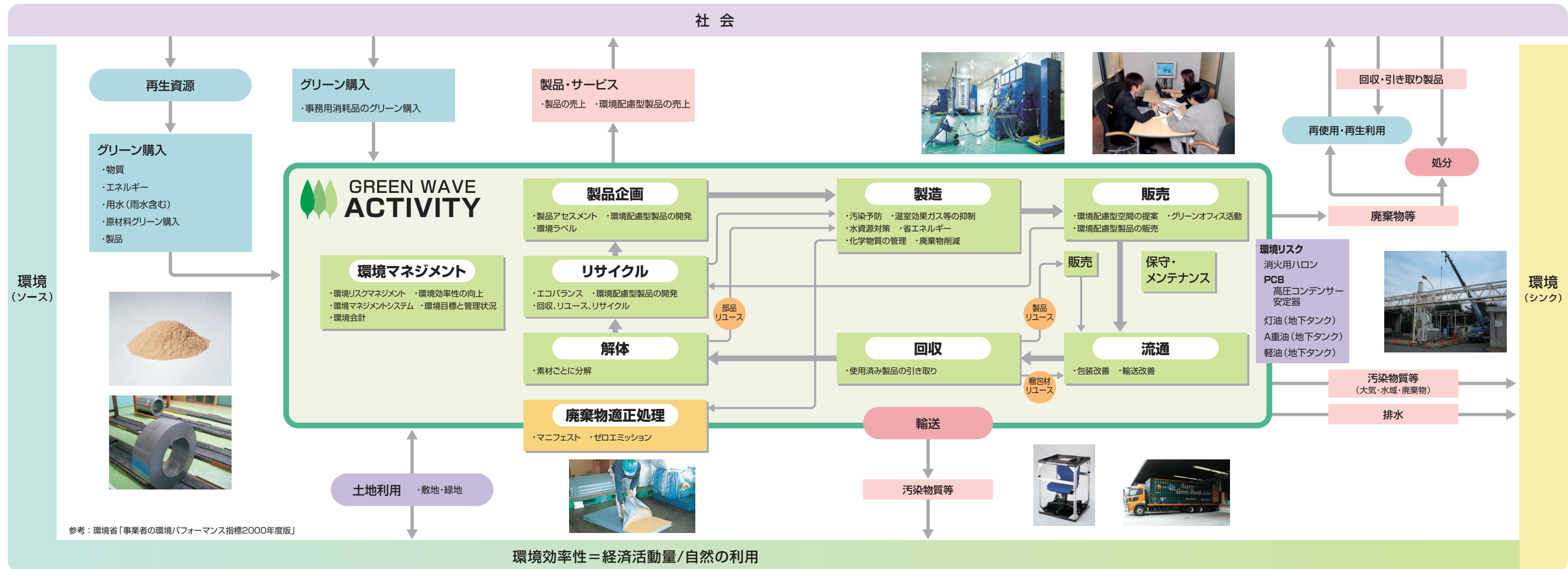
廃棄物等総排出量・再資源化量	
産業廃棄物等の排出量 （うち再資源化量）	16.4千t 16.0千t
一般廃棄物等の排出量 （うち再資源化量）	1.1千t 0.2千t
引き取り製品・梱包材の再資源化量	9.4千t

廃棄物最終処分量	
産業廃棄物最終処分量	4.7千t

水域への排出量	
排水量	355千m ³
BOD	4t
COD	1t

参考：環境省「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン-2002年度版」

オカムラグループの事業活動と環境との関わり



環境目標と管理状況

2006年度より、第5次環境中期計画に取り組みました。

2006年度の活動状況の報告とその課題を踏まえて、2007年度の目標を報告いたします。

オカムラグループの環境管理

生産効率性を改善

オカムラグループは、生産、物流、使用、廃棄などの各工程で環境負荷を低減するため、環境効率性の改善を進めています。同時に、環境負荷の絶対量に対する軽減を意識して改善を進めています。

2006年度の位置づけ

2006年度は、グループ各社が同一の環境方針のもとで活動し、グループ全体で環境経営度の向上を図りました。また、グリーン購入法の改正や改正省エネ法への対応など、外部要因の変化に対してグループとしての対応を行いました。

データの集計

2003年度に連結環境情報開示の体制整備が完了したのを受け、引き続きグル

ープで環境パフォーマンスデータを集計、記載しています。

2006年度の活動

全般的な状況

2006年度は、生産エネルギーの利用効率化対策と売上構成の変化により、生産エネルギーについては総エネルギー投入量も2005年度比99.5%となりました。また、原単位は5.9%削減を達成しました。

有害化学物質の削減、回避では、目標を上回る成果をあげました。PRTR物質取扱量は目標に対して114.7%の達成率となりました。VOCの取扱量は、2000年度比で63.8%削減されました。金属を除く産業廃棄物の排出量と処分費用に関しては、量の削減は目標に達しました。

ゼロエミッションの状況

2005年度にグループとしてゼロエミッションを達成しましたが、子会社における一部廃棄物が埋め立てとなったため、グループとしてのゼロエミッションは未達となりました。

製品・サプライチェーンへの取り組み

製品への対策として、木質材のグリーン購入法調達基準の改正に対応したJOIFA（日本オフィス家具協会）認証の管理体制を構築。違法伐採材の不使用に向けた調達、製品開発、受注、生産、納品までのサプライチェーン全般をコントロールするマネジメントを確立しました。製品の環境負荷物質対策に関しては、流体変速機・トルクコンバータの対策を実施。その成果を今後の製品開発に活用していきます。また、製品の物流対策とし

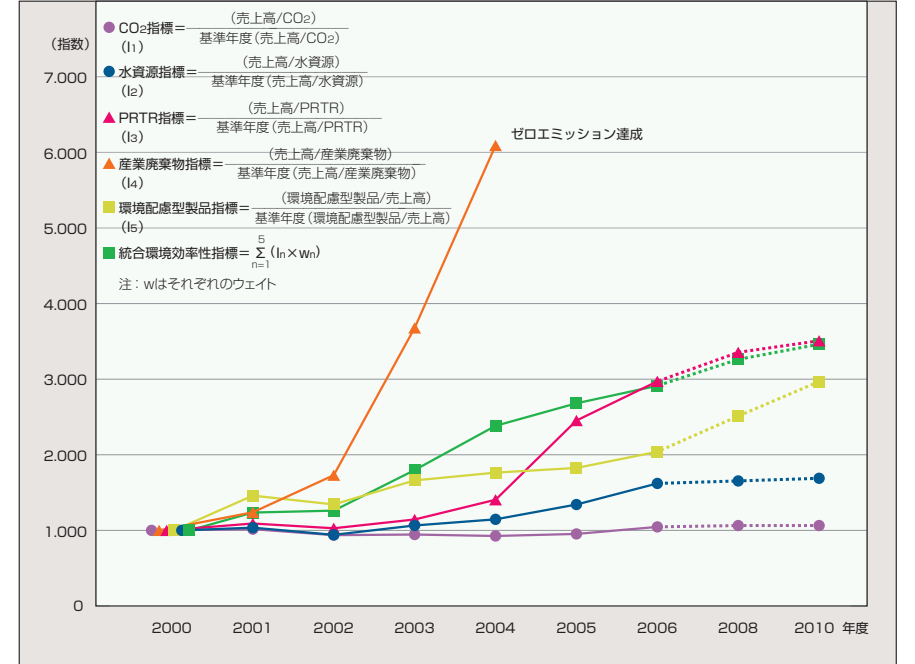
て輸送エネルギー効率化への取り組みを進め、工事や引き取り製品に関する廃棄物対策の適正化と、リサイクル率の向上に向けた調査も行いました。

2007年度目標の策定

オカムラグループは、2006年度のグループ環境管理状況をグループ環境会議で評価し、2007年度環境目標の見直しを行いました。主な変更点は、以下のとおりです。

- スーパーグリーンウェブの基準を利用目的に合わせて見直し
- 廃棄物対策、グリーンウェブ製品のとらえ方の改良
- 情報開示として「環境経営報告書」から「CSRレポート」への移行

環境効率性の推移 審査



A：達成率100%以上 B：達成率90%以上100%未満 C：達成率90%未満

第5次環境中期計画の目的・目標と2006年度の管理状況 審査

環境行動指針	第5次環境中期計画項目	目標(2006年度)	活動実績(2006年度)	評価	目標(2007年度)
1 製品、サービスの環境性能の向上対策	1-1 製品開発における環境配慮型企画と設計	●製品アセスメント項目の見直しとアセスメントの実施 ●スーパーグリーンウェブ製品の認定	●適用率は特定市場分野製品を除きほぼ達成 ●スーパーグリーンウェブ製品基準を運用中	B B	●製品アセスメント項目の見直しとアセスメントの実施 ●スーパーグリーンウェブ認定基準の見直し
	1-2 有害化学物質の回避、削減	●PRTR対象物質削減2000年度比45% ●グリーン調達ガイドライン、資材ガイドによる現状把握と削減計画の策定	●PRTR対象物質：目標234,312kg、実績199,984kg、達成率114.7% ●流体変速機・トルクコンバータにおける環境負荷物質対策実施	A A	●PRTR対象物質削減2000年度比40% ●環境負荷物質・シックハウス原因物質対象の把握と対策
	1-3 環境配慮型製品・サービスの提供	●環境配慮型製品・サービスの提供、売上高比45% グリーンサービスの認定基準と特注品データの整備	●グリーンウェブ売上比率：目標45.0%、実績44.7%、達成率99.3% 特注品データの把握精度向上	B A	●環境配慮型製品・サービスの提供、売上高比50% グリーンサービスの拡大と工事の検討
	1-4 使用済み製品の回収、リユース、リサイクルの拡大	●使用済み製品の回収データの精度向上	●生産系産業廃棄物と配送系廃棄物でのグループ実績の把握体制構築	A	●回収製品のリユース、リサイクルの拡大
2 事業所、拠点での環境保全活動	2-1 地球温暖化防止対策	●グループCO ₂ (エネルギー起源)2000年度原単位比98% 生産各事業所2005年度総エネルギー投入量の3%の省エネルギー対策 オフィス系各事業所2005年度電気使用量の1%の省エネルギー対策 ●物流CO ₂ 総排出量の把握の精度向上と削減計画の策定	●グループCO ₂ 2000年度原単位比95.9%、達成率102.1% 生産系サイト：目標845,575GJ、実績867,281GJ、達成率97.4% オフィス系サイト：目標10,369千kWh、実績9,809千kWh、達成率105.4% ●物流CO ₂ 把握体制の構築と削減計画立案	A B A A	●グループCO ₂ (エネルギー起源)2000年度原単位比96% 生産各サイト2006年度総エネルギー投入量の2%の省エネ対策 オフィス系各サイト2006年度電気使用量の1%の省エネ対策 ●物流CO ₂ 排出量の削減対策
	2-2 省資源、廃棄物排出対策	●廃棄物ゼロエミッション(国内全サイト)の達成とマテリアルリサイクルの拡大 ●産業廃棄物排出量2000年度比100%(排出量と処理費用) ●水資源投入量2000年度比84%	●金属除く排出量：目標4,757t、実績4,500t、達成率105.7% ●エヌエスコカムラ：ゼロエミッション未達成 ●水資源：目標436,786m ³ 、実績388,652m ³ 、達成率112.4%	A B A	●廃棄物ゼロエミッション(国内全サイト)とマテリアルリサイクルの拡大 ●産業廃棄物排出量2000年度比90%(排出量と処理費用) ●水資源投入量2000年度比82%
	2-3 汚染予防対策	●PCB、休止焼却炉の適正管理および処理計画の検討 ●大気汚染・水質汚濁・土壌汚染の予防と防止対策	●PCB、休止焼却炉の適正管理および処理計画の検討 ●つくば・追浜事業所で休止焼却炉撤去。追浜事業所：休止めっき設備の撤去	A A	●PCB、休止焼却炉の適正管理および処理計画の検討 ●大気汚染・水質汚濁・土壌汚染の予防と防止対策
3 環境管理活動、社会性活動の充実	3-1 環境マネジメントシステムの継続的改善	●環境マネジメントシステムの継続的改善(内部環境監査の充実) ●環境目的・目標のグループ(国内連結対象)統合	●環境管理基本規定改定の実施と監査業務の改善 ●グループ各社間で環境方針、目的・目標の統一作業を実施	A A	●環境マネジメントシステムの継続的改善(是正処置、予防処置) ●グループ統合化に向けての継続的改善(グループ監査の検討)
	3-2 環境情報開示と双方向コミュニケーションの充実	●製品の環境情報提供依頼への対応と提供システムの充実 ●環境経営報告書等の環境情報開示の充実	●グリーン購入法改正への対応。開示情報の改良に向けたシステム改良の検討 ●「2006環境経営報告書」を6月に発行。CSRについての調査実施	A A	●製品環境情報提供システムの改善 ●環境経営報告書等の情報開示の充実(CSRレポートへの移行とウェブ化)
	3-3 環境教育の充実	●環境意識向上に加え、環境改善のための専門教育の継続実施	●環境教育指導者の育成。専門教育の継続実施。クールビズなど啓発活動実施	A	●環境マインド向上に向けての環境教育の充実
	3-4 環境社会貢献活動の推進	●環境保全団体等との協働による貢献事業の検討 ●子供(次世代)への環境教育の支援と地域環境貢献活動	●IGPNシンガポールで、環境展示の実施 ●インターンシップ受け入れと工場見学時に一部環境教育を実施	A A	●環境保全団体等との協働による貢献事業の実施 ●子供(次世代)への環境教育の支援と地域環境貢献活動

環境マネジメント

オカムラグループは、環境に配慮したモノづくりとサービスで「持続可能な社会の構築」に貢献するため、環境マネジメントを推進します。

グループEMS

グループEMSの状況

オカムラグループは、グループ各社がそれぞれISO14001の環境認証を取得しています。2006年度は第5次環境中期計画の初年度にあたり、環境方針と環境目的・目標をグループで統一しました。活動のポイントは、環境目的に対する各社の役割の明確化とベクトル合わせで、環境管理責任者会議を年4回開催し、環境における問題の状況把握や対策の検討を行い、グループ各社への水平展開を推進しました。また、グループ各社の経営層によるオカムラグループ環境会議を年2回開催し、環境目的・目標、環境マネジメントシステムの検証を行いました。

環境監査の状況

環境活動の達成・運用状況は、①内部環境監査、②第三者監査、③外部審査機関による定期維持審査で検証しています。2007年3月現在、内部環境監査員有資格者は現在216名で、このうち139名が環境監査に従事しています。

環境教育・環境表彰制度

環境教育

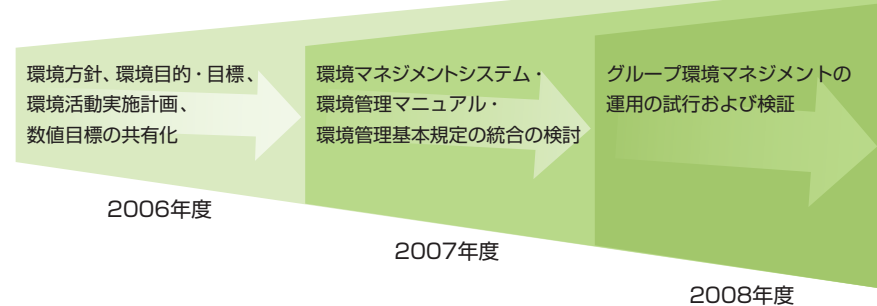
環境保全活動を理解し、行動できる従業員を育成するために、環境教育を実施しています。すべての従業員が立場に応じた自らの役割を自覚し、目標に向かって必要な手順で行動できることをめざします。環境教育は、新入社員・中途入社者を対象とする必修教育と、各事業所・各部門がISO14001に基づいて作成した、部門教育を実施しています。

■環境表彰制度

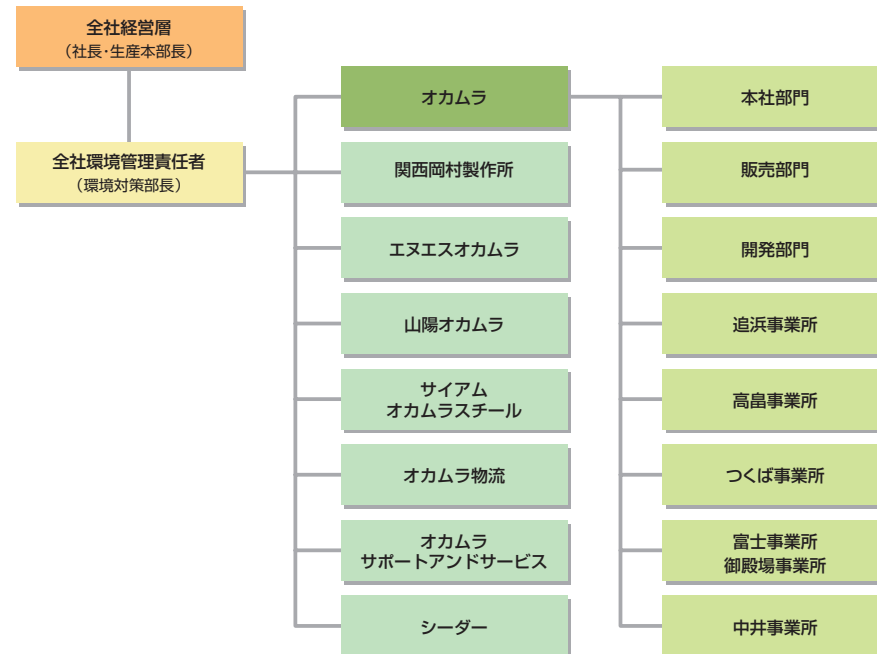
2003年度より、以下の3区分を対象に環境活動表彰制度を実施しています。

- サイト表彰：環境マネジメント単位ごとの活動評価
- 部門表彰：環境マネジメント単位を構成する各部門の活動評価
- プロジェクト・個人などその他顕著な活動評価

グループ環境管理の概念



グループ環境管理推進体制



オカムラの環境教育

種類	対象	名称	内容
必修教育	新入社員 中途入社者	新入社員研修	● 環境問題 ● EMS導入編
		新入社員フォローアップ研修	● EMS活動編
		中途入社者研修	● 環境問題 ● EMS導入編
部門教育 ISO14001による	全社員	一般教育	● 環境方針や全社の環境目的・目標、実施計画 ● グリーンオフィス活動
		専門教育	● 各部門ごとの環境目的・目標、実施計画 ● 著しい環境側面に応じた教育訓練
		管理者教育	● 管理者としての環境マネジメントシステムなど
環境啓発	全社員	情報発信	● 環境経営報告書発行 ● ホームページの環境サイト ● 社内報に環境ページを連載 ● エコプロダクツ展出展 ● 各地域主催の環境関連展示会出展

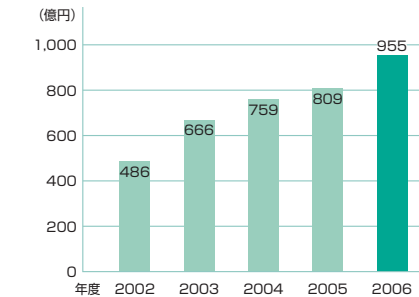
製品・サービスの提供

オカムラグループは、これからも人と環境に配慮したよい品をご提供してまいります。

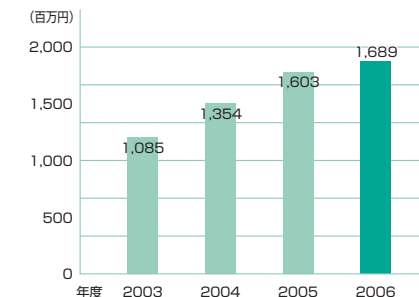
環境配慮型製品

オカムラグループでは、独自の環境基準に適合した製品に「グリーンウェーブ」マークを表示。製品カタログ・パンフレットなどで情報提供するほか、環境省の「環境ラベル等データベース」に登録しています。2006年度のグリーンウェーブ商品の売上率は44.7%と着実に伸びています。今後は製品だけでなく提供するサービスの「グリーンウェーブ」化を推進していきます。

グリーンウェーブ製品売上高 審査



保守・メンテナンスサービス売上高 審査



※オカムラサポートアンドサービス単独の売上高。

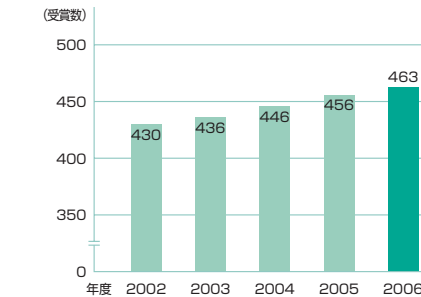


「グッドデザイン賞」を受賞したマルチパーパスチェア「グラータ」シリーズ

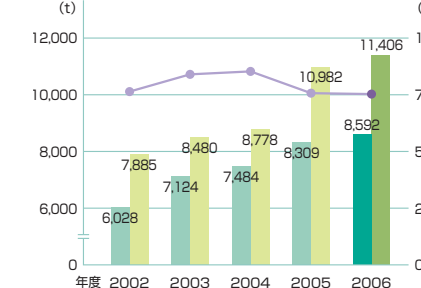
グッドデザイン

製品のあるべき姿の追求やお客様ニーズに的確に対応することにより、デザイン性、機能性、信頼性を兼ね備えた製品づくりを行っています。こうした開発姿勢が評価され、内外で数々のデザイン賞を受賞しています。(財)日本産業デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞」の受賞は累計で463点、「ロングライフデザイン賞」の受賞は累計で74点になりました。「グッドデザイン賞」は業界ではもっとも多く受賞しています。

グッドデザイン賞受賞数(累計) 審査



使用済み製品・梱包材等のリユース、リサイクル 審査



※2003年度以降は、リユースとリサイクルの合計値。

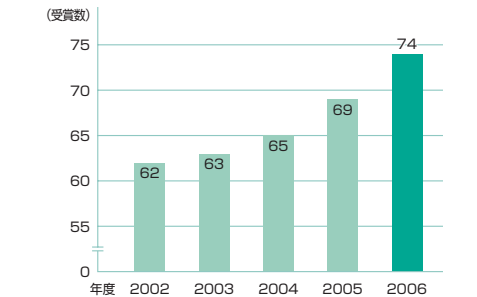


「ロングライフデザイン賞」を受賞したローパーティション「SLシリーズ」

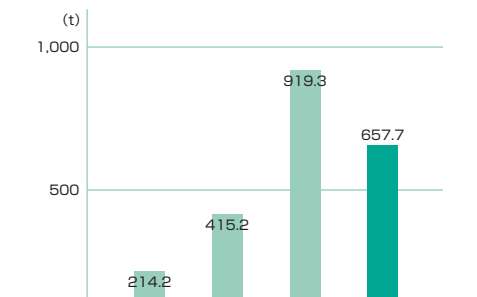
保守・メンテナンス

「消費・廃棄」から「ロングライフ使用」へ。こうした社会的要請に的確に対応するため、オカムラ製品の修理、パーツ交換、クリーニング、可動製品の保守・点検などを行う業務を展開。2006年度の売上高は前年比105.4%と、ニーズに応じて着実に増加しています。また、不用となったオフィス家具をリユースする事業も展開。廃棄される製品の削減に取り組んでいます。

ロングライフデザイン賞受賞数(累計) 審査



中古家具の販売実績 審査

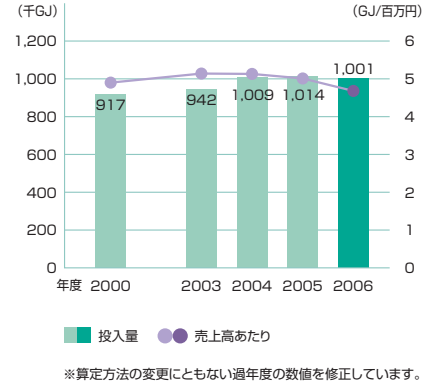


イスのクリーニング

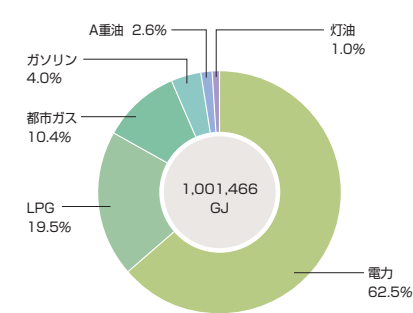
温暖化防止対策

オカムラグループは、環境目的・目標に地球温暖化防止を掲げています。目的達成に向け、EMSに基づく日常的な取り組みを実施しています。

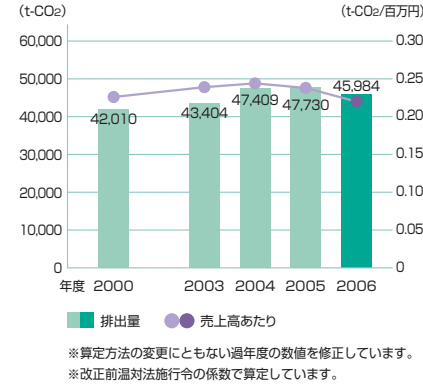
総エネルギー投入量 審査



総エネルギー投入の内訳 審査



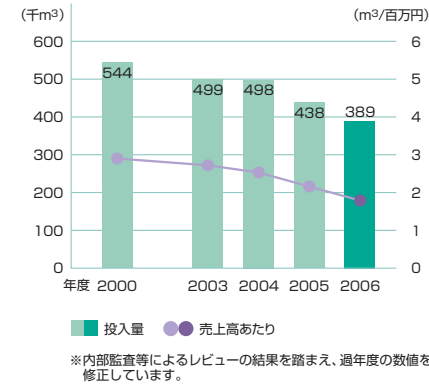
CO₂ 排出量 審査



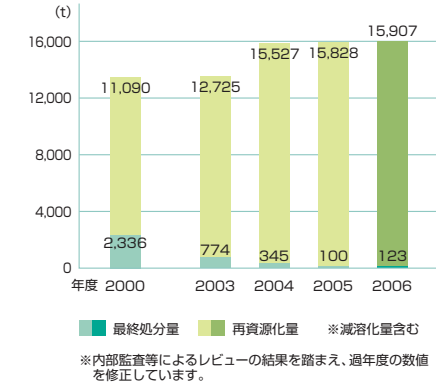
資源投入・排出対策、化学物質の管理

工業用水の使用削減、再生資源の使用拡大を進めています。
産業廃棄物のリユース、リサイクルを徹底しています。
厳しい自主基準を設定して、化学物質の管理を徹底しています。

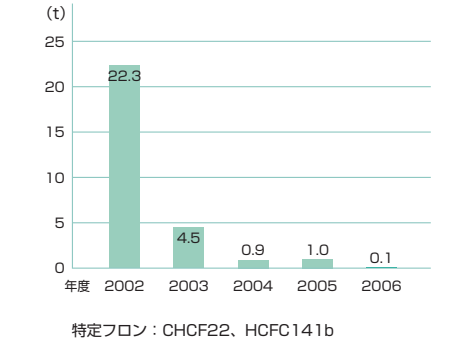
水資源投入量 (雨水を含む) 審査



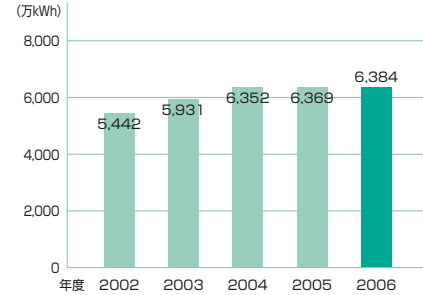
再資源化量と最終処分量 審査



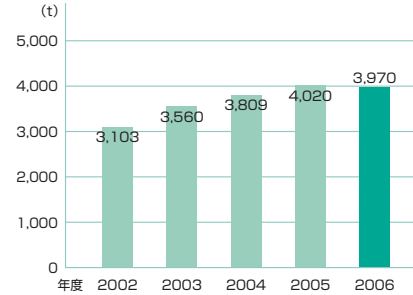
特定フロン使用実績 審査



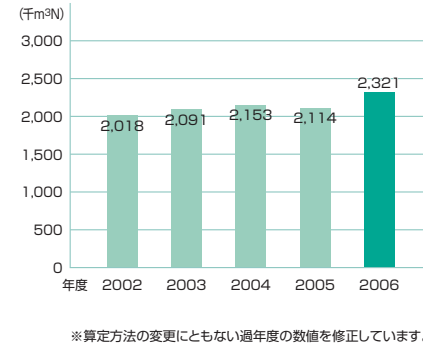
電力使用量 審査



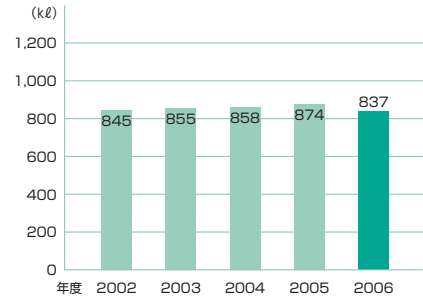
LPG使用量 審査



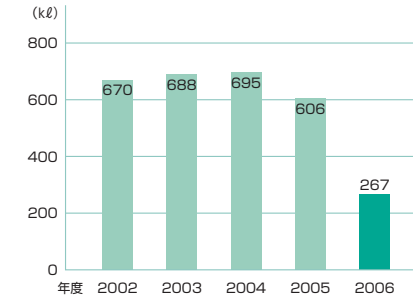
都市ガス使用量 審査



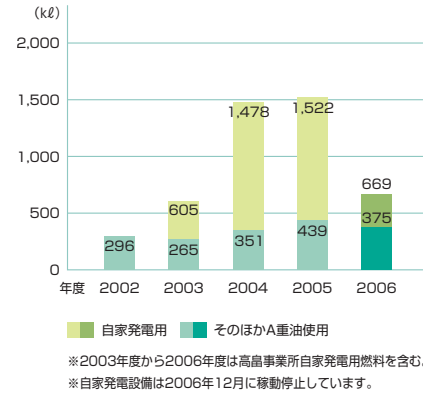
ガソリン使用量 審査



灯油使用量 審査



重油使用量 審査



エネルギーの投入状況

総エネルギー投入量は1,001千GJで、2005年度比は総量で98.8%、グループ売上高あたりの投入量は93.4%でした。生産の効率化により、5.7%の売上の伸びに対して投入量を0.5%削減できたこと、およびオフィス活動でのエネルギー使用の効率化などが改善の要因です。2006年度はつくば事業所がLPG

から都市ガスに、山陽オカムラが灯油からLPGに燃料を切り替えたことにより、エネルギーの構成が変化しています。CO₂排出量は45,984t-CO₂で、2005年度比は総量で96.3%、グループ売上高あたりの排出量では91.1%でした。

資源投入・排出対策

生産事業所では水循環システムを導入し、水の使用量の削減に取り組んでいます。2006年度は水資源投入量2000年度比84%の目標に対し実績は71%で、達成率は112.4%でした。産業廃棄物においては、2005年度に国内グループ生産事業所が産業廃棄物のゼロエミッションを達成しました。しかし2006年度は、エヌエスオカムラの廃棄物処理委託会社が事故により被災し事業撤退したため、ゼロエミッションの継続

ができなくなりました。今後はオカムラの全生産事業所で再生材の利用、歩留まりの向上、梱包材の削減などによって資源消費の削減を推進していきます。

化学物質の管理状況

オカムラグループでは、独自に設定した「有害物質管理基準」の「使用禁止物質」に指定した物質を全廃したほか、「使用削減物質」に定めた物質の削減をグループ全体で進めています。また、各生産事業所では危険物取扱者に対する専門教育を実施し、危険物の法律や条令に基づく

取り扱いを徹底しています。VOC対策としては、塗装工程で揮発性有機化合物を使用しない粉体塗装ラインの導入を推進、2006年度までに12ラインが稼働しています。PCBを含む高圧コンデンサー、安定器は厳重に管理、保管しています。

特定フロンの使用状況

2006年度、冷凍冷蔵ショーケースを製造する御殿場事業所で使用した特定フロンは0.1tで、2005年度の約10分の1に削減しました。

PRTR届出物質の排出移動量 (2006年度) 審査

種別	政令番号	CAS番号	物質名	別名	取扱量	排出量		移動量	
						大気への排出	公共水域への排出	下水道への移動	その他の移動
1種	1	-	亜鉛の水溶性化合物	-	5,814	-	3	58	2,242
1種	40	100-41-4	エチルベンゼン	-	23,956	21,075	-	-	1,198
1種	63	1330-20-7	キシレン	-	80,490	69,254	-	-	4,075
1種	101	111-15-9	酢酸2-エトキシエチル	エチレンジグリコールモノエチルエーテルアセテート	1,818	1,727	-	-	91
1種	145	75-09-2	ジクロロメタン	塩化メチレン	10,910	10,381	-	-	529
1種	224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	-	7,596	6,520	-	-	383
1種	227	108-88-3	トルエン	-	65,646	58,797	-	-	3,333
合計					196,230	167,753	3	58	11,850

※届出対象物質のみ記載しています。

生産事業所・主要関連会社の環境管理データ

2006年度のオカムラ生産事業所、生産関係会社の環境管理データをご紹介します。

審査

事業所/主要関係会社名	生産事業所						関係会社					
	追込事業所	高島事業所	つくば事業所	富士・御殿場事業所	中井事業所	関西岡村製作所	エヌエスオカムラ	山陽オカムラ	サイアムオカムラ スチール	オカムラ物流	オカムラ サポートアンドサービス	
所在地	神奈川県横浜須賀野市浦郷町5-2944-1	山形県東置賜郡高島町大字糠野目字北原五-2635	茨城県つくば市緑ヶ原1-2-2 テクノパーク豊里工業団地	静岡県御殿場市大坂102-1 静岡県御殿場市柴田字キタ744	神奈川県足柄上郡中井町境390	大阪府東大阪市稲田上町2-8-63	岩手県釜石市港町2-1-1	岡山県高梁市間之町1	51-5Poochao RD.Bangyaparak, Bangkok 10130 Thailand	神奈川県横浜市鶴見区末広町2-4-3	東京都港区赤坂1-8-10 第9興和ビル	
土地	51,488m ²	112,537m ²	99,142m ²	128,275m ²	53,890m ²	23,853m ²	35,500m ²	36,098m ²	11,107m ²	43,969m ²	-	
建物(延床面積)	44,822m ²	25,315m ²	37,577m ²	68,024m ²	35,388m ²	30,731m ²	26,700m ²	13,548m ²	9,072m ²	77,254m ²	-	
緑化面積/緑化率	2,491m ² /4.8%	43,488m ² /38.6%	57,739m ² /58.2%	31,604m ² /24.6%	20,128m ² /37.4%	2,210m ² /9.3%	9,230m ² /26.0%	6,599m ² /18.3%	284m ² /2.6%	6,644m ² /15.1%	-	
主要生産品目	オフィス環境什器 流体変速機	オフィス環境什器(木質系)、 商業施設用什器	オフィス環境什器 商業施設用什器	店舗用陳列機器等、 冷凍冷蔵ショーケース	店舗用陳列機器	オフィス環境什器	物品管理棚、 オフィス環境什器	オフィス環境什器、 店舗用陳列機器	オフィス環境什器、 商業施設用什器	輸送、保管、荷役、流通、 加工、施工、内装工事	据付工事、保守、 アフターサービス	

環境パフォーマンス

項目	単位	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
総エネルギー投入量	GJ	131,242	50,198	92,577	254,201	48,709	139,688	82,683	67,983	71,362	58,080	2,199
水												
水資源投入量	m ³	19,978	14,519	19,983	156,015	1,793	51,787	55,930	52,575	68,980	5,543	90
雨水投入量	m ³	-	-	-	-	1,859	-	-	-	-	-	-
節水システムによる節水量	m ³	1,164	0	7,276	52,195	20,862	12,744	0	0	0	-	-
総排水量	m ³	15,982	14,519	18,784	145,115	285	43,006	55,930	46,678	68,980	5,543	90
大気												
温室効果ガス排出量	t-CO ₂ e	5,429	2,347	4,252	12,236	2,132	6,084	4,103	3,409	3,212	2,563	118
オゾン層破壊物質排出量	ODP-kg	0	0	0	0.28	0	0	0	0	0	-	-
SOx排出量	t	0.007	0	0	0	-	-	0.068	2.274	0.041	-	-
NOx排出量	t	0.280	5.930	2.490	1.358	0.216	0.971	1.502	1.567	0.005	-	-
廃棄物												
再資源化量	t	3,181	568	1,421	5,002	2,048	1,314	1,655	718	1,307	4,383	104
最終処分量	t	0	0	0	0	0	0	123	0	249	1,714	236
PRTR対象物質												
取扱量	kg	25,229	2,115	19,581	99,051	-	3,528	3,503	46,977	-	-	-
大気への排出量	kg	24,407	1,586	14,711	93,794	-	547	0	35,233	-	-	-
トルエン	kg	258	0	387	45,604	-	140	0	13,193	-	-	-
キシレン	kg	15,131	0	10,059	27,270	-	321	0	16,794	-	-	-
その他	kg	9,018	1,586	4,265	20,920	-	86	0	5,246	-	-	-
公共用水域への排出量	kg	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-
下水道への移動量	kg	-	-	78	-	-	82	0	-	-	-	-
廃棄物への移動量	kg	822	529	1,014	5,098	-	1,285	1,479	2,349	-	-	-
悪臭の発生状況												
キシレン	ppm	<0.1	-	<0.1	-	-	-	-	<4	1.77	-	-
イソブタノール	ppm	-	-	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
酢酸エチル	ppm	-	-	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
トルエン	ppm	<1	-	<0.1	-	-	-	-	-	9.48	-	-
スチレン	ppm	-	-	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-
臭気指数		<10	11	-	<10	<10	-	-	-	-	-	-
水域												
BODの排出量	t	0.11	1.452	0.350	0.219	0	1.364	-	0.102	0.670	-	-
CODの排出量	t	0.210	-	-	-	-	-	0.531	0.013	4.33	-	-
窒素の排出量	t	0.040	-	-	0.376	-	-	1.594	0.100	-	-	-
リンの排出量	t	0.020	-	-	0.082	-	-	0.152	0.004	-	-	-

●PRTR対象物質の土壌への排出および事業所における埋立処分はありませんでした。
●資料等における対象物質の含有量が0.1~1%等の報告の場合、1%として計算しています。
●水資源投入量は上水・工業用水・地下水の合計です。

サイアムオカムラスチールは、法律上の義務づけがないこともあり、データの把握ができていないものもありました。ISO14001による環境マネジメントシステムの構築にもない、今後はデータを整備していきます。 - :実績値なし。規制対象外を示します。

審査

主な法規制対応

項目	単位	規制値	実測値	規制値	実測値	規制値	実測値	規制値	実測値	規制値	実測値	規制値	実測値	規制値	実測値
大気															
SOx排出濃度	m ³ /h	0.117	0.001	5.31	<0.01	-	-	-	<0.001	-	-	-	-	1	0.0009
NOx排出濃度	ppm	150	45	250	76	180	28	-	31	230	24	150	69	230	14
ばいじんの排出濃度	g/m ³ N	0.05	0.01	0.3	0.003	-	-	-	0.001	0.2	0.007	0.1	0.002	0.2	0.015
騒音															
大きさ(昼間/朝夕/夜間)	dB	75/75/65	68/68/59	70/65/55	54/51/44	60/55/50	53/46/48	70/65/60	53/-/59.2	75/75/65	49.5/49.5/50	70/65/60	-	70/65/55	60/57/55
振動															
大きさ(昼間/夜間)	dB	65/55	48/44	65/60	42/30	60/55	38/<30	70/65	46/-	70/65	39.6/40.4	70/65	-	55/60	54/51

●規制値は法および自治体条例等によります。
●実測値は最大値です。
●規制値がなく実測値を報告している項目は、自主的に測定しているものです。

*エヌエスオカムラのSOx排出濃度の規制値および実測値は、m³/hで表記しています。

*サイアムオカムラスチールの規制値および実測値はppmで表記しています。

- :実績値なし。規制対象外を示します。

環境コミュニケーション、地域貢献

オカムラグループはさまざまなステークホルダーの皆様と密にコミュニケーションをとり、また、積極的に地域貢献活動をしています。

各種イベントで環境への取り組みをご紹介します

2006年度は「エコプロダクツ国際展」や、「エコプロダクツ2006」などの各種イベントで、パネルなどを使用して、オカムラグループの環境への取り組みをご紹介します。

環境関連情報開示

製品情報の提供

支店・営業所・販売店に寄せられる「製品の環境影響調査・資料提出」という要望に対し、製品の原材料、接着剤、塗料などに関するデータを提供し、環境への配慮をご確認いただいています。2006年度はグリーン購入法の判断基準改正にとまない、木材・木製品の合法性に関するデータを開示する体制を整えました。

報告書の発行

オカムラは1999年から継続して環境報告書（2004年～2006年は環境経営報告書）を発行し、オカムラの環境活動を広くステークホルダーの皆様へ理解していただけるよう努めてきました。「2006環境経営報告書」は、環境省と（財）地球・人間環境フォーラムが主催する「第10回環境コミュニケーション大賞」にお

地域・環境コミュニケーション

活動内容	実施事業所・部門・関係会社	実施内容例
工場・倉庫見学	追浜事業所、高島事業所、つくば事業所、関西岡村製作所、オカムラ物流、サイアムオカムラスチール	近隣住民や地域企業の方々に対する工場案内
社会科見学	追浜事業所、高島事業所、つくば事業所、関西岡村製作所、山陽オカムラ、オカムラ物流	小・中・高校生へ、工場案内、環境活動の紹介
インターンシップ受け入れ	追浜事業所、高島事業所、開発部門、山陽オカムラ、販売部門	大学生・高校生・中学生を受け入れ
地域貢献活動	追浜事業所、高島事業所	地区の防犯・交通安全推進団体に加盟し賛助
地域清掃活動	追浜事業所、高島事業所、エヌエスオカムラ、山陽オカムラ、オカムラ物流、オカムラサポートアンドサービス	工場近隣、最寄り駅の美化運動
会社設備の提供	つくば事業所	つくばラクビーフェスティバル等へのグラウンド提供
募金活動	つくば事業所、エヌエスオカムラ、オカムラサポートアンドサービス	ジャワ島地震義援金、日本赤十字社募金等
環境コミュニケーション	富士事業所、中井事業所、販売部門ほか	各地の植樹会等に参加
製品環境情報の開示	販売部門	お客様からの製品に関する環境情報開示の要望に対応
環境団体への加盟	追浜事業所、つくば事業所、富士事業所、中井事業所ほか	環境団体の活動に参加
苦情への対応	追浜事業所、高島事業所	苦情への対応と改善

環境への取り組みを紹介した主なイベント

開催時期	展示会	開催場所
2006年6月	中部どてらい市	ポートメッセなごや
2006年7月	大阪どてらい市	インテックス大阪
2006年9月	国際物流総合展2006	東京ビッグサイト
2006年10月	2006東京国際MH展（物流マーケティング）	東京ビッグサイト
2006年10.11月	エコプロダクツ国際展2006	サンテック・シンガポール国際会議・展示会センター
2006年12月	エコプロダクツ2006	東京ビッグサイト
2007年1月	ショッピングセンタービジネスフェア2007	パシフィコ横浜
2007年2月	スーパーマーケットトレードショー	東京ビッグサイト
2007年3月	ドラッグストアショー	幕張メッセ
2007年3月	JAPAN SHOP 2007	東京ビッグサイト

いて、環境報告優秀賞を受賞しました。今年度から、オカムラグループは、「環境経営報告書」を改め「CSRレポート」として発行し、環境情報だけでなく社会的責任とその対応をより詳しくご報告していきます。



「第10回環境コミュニケーション大賞」表彰式

地域貢献

オカムラグループは、事業所の近隣住民の方々、子供たち、行政機関や他企業など、より多くの方々との積極的な対話を通じ、地域社会との共生を図っています。各生産事業所では、実際に行っている活動を知ってもらうために、地域の小学校、中学校、高校を対象に工場見学を受け入れています。見学では工場での作業のほか、生産現場での環境への取り組みを紹介しました。また、所在地周辺での清掃、植栽などの社会的活動や、犯罪撲滅のため、防犯協会や交通安全協会などの地域安全活動に積極的に参加し、地域とのコミュニケーションをとっています。

環境活動・社会活動のあゆみ

年	環境対策	コミュニケーション、評価、表彰	事業活動
1945年 ～ 1992年	<ul style="list-style-type: none"> ●日本初パーティクルボード製家具 [1966年] ●公害対策および設備部組織化 [1966年] ●商品開発研究所設立 [1972年] ●オフィス研究所設立 [1980年] ●イスのノンフロン化 [1990年] ●製品の環境対策方針策定 [1991年] ●リサイクルカー導入 [1992年] ●接着剤トリクロロエタン廃止 [1992年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●人間工学「イスの科学」発表 [1960年] ●折りたたみイス：初のGマーク受賞 [1963年] ●Gマーク業界最多受賞 [1967年] ●追浜工場「工業技術院長賞」受賞 [1969年] ●JAPAN SHOP展「通産大臣賞」受賞、以降「総理大臣賞」等14年連続受賞 [1980年] ●日本科学技術連盟より「第12回石川賞」受賞 [1980年] ●高島工場 省エネルギー通産大臣賞受賞 [1981年] ●「第2回QA本賞」受賞 [1984年] ●高島工場「日本緑化協会会長賞」受賞 [1984年] ●標準化・効率化で「通産大臣賞」受賞 [1984年] ●JR新宿駅サイン：SDA大賞（通産大臣賞）受賞 [1989年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●岡村製作所創業（横浜市磯子区岡村町） [1945年10月] ●「ミカサ」自動車開発 [1955年] ●IBM-407（PCS）導入、事務作業の機械化 [1960年] ●米国L.A.ターリン社と技術提携 [1963年] ●岡村工業技術学校：横須賀市追浜に設立 [1967年] ●IBM-370（COPICS）導入 [1973年] ●ロータリーラックを米国に技術輸出 [1982年] ●ジェイティオカムラ設立 [1988年] ●サイアムオカムラスチール設立（タイ） [1988年] ●エヌエスオカムラ設立 [1992年]
第1次環境 中期計画 1993年4月 ～ 1997年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●第1次環境中期計画「豊かな未来へ」スタート [1993年] ●中井事業所：環境アセスメント [1996年] ●グリーン購入ネットワーク加入 [1996年] ●環境対策部発足 [1996年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境パンフレット「豊かな未来へ」発行 [1995年] ●「Gマーク部門賞 外国商品賞」受賞 [1995年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●オカムラビジネスサポート設立 [1994年]
第2次環境 中期計画 1997年4月 ～ 2000年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●追浜事業所：ISO14001審査登録 [1997年9月] ●「グリーンオフィス活動」スタート [1999年6月] 	<ul style="list-style-type: none"> ●つくば事業所「OAオフィス賞」受賞 [1997年] ●「グリーン購入ガイド」発行 [1998年6月] ●「1999環境報告書」発行 [1999年9月] ●環境経営度調査：第97位 [1997年]、第105位 [1998年]、第38位 [1999年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●中井事業所稼働開始 [1997年] ●エフエムソリューション設立 [1998年] ●オカムラサポートアンドサービス設立 [1999年]
第3次環境 中期計画 2000年4月 ～ 2003年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●オカムラ：ISO14001全社統合審査登録 [2000年10月] ●環境対策部を環境・品質保証部に組織変更 [2001年4月] ●国内全生産事業所のISO14001審査登録完了 [2001年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●「Gマーク部門別金賞」受賞 [2000年] ●「2000環境報告書」発行 [2000年9月] ●「2001環境報告書」発行 [2001年9月] ●「2001環境報告書」が「第5回環境レポート大賞」優秀賞受賞 [2001年12月] ●「2002環境報告書」発行 [2002年8月] ●「2002環境報告書」発行 [2002年8月] ●リターナブル輸送パッケージが「アジアスター賞」受賞 [2002年12月] ●環境経営度調査：第123位 [2000年]、第66位 [2001年]、第48位 [2002年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヒル・インターナショナル設立 [2000年] ●第1回JAPANドラッグストアショーに出展 [2001年] ●エルゴノミックメッシュチェア「コンテッサ」シリーズ発表 [2002年] ●エルゴノミックメッシュチェア「コンテッサ」海外輸出開始 [2002年] ●ORGATEC 2002に出展 [2002年]
第4次環境 中期計画 2003年4月 ～ 2006年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●環境長期計画「GREEN WAVE 2010」スタート [2003年4月] ●オカムラ全生産事業所でゼロエミッション達成 [2003年] ●粉体塗装ライン導入開始 [2003年] ●御殿場事業所・関西岡村製作所：HCFC-141b全廃 [2004年] ●環境・品質保証部を環境対策部に組織変更 [2004年12月] ●サイアムオカムラスチール：ISO14001審査登録 [2006年2月] 	<ul style="list-style-type: none"> ●「2002環境報告書」が「第6回環境報告書賞」優良賞受賞 [2003年5月] ●「2003環境報告書」発行 [2003年7月] ●ダイジェスト版発行開始 [2003年7月] ●「2004環境経営報告書」発行 [2004年6月] ●「コンテッサ」が「IDEA2004金賞」受賞 [2004年6月] ●「2005環境経営報告書」発行 [2005年6月] ●関西支社が国土交通省「道路愛護団体表彰」受賞 [2005年6月] ●「パロン」が「iFデザイン賞」受賞 [2007年2月] ●「パロン」「クルーズ&アトラス」が「レッドドット賞」受賞 [2007年3月] ●環境経営度調査：第71位 [2003年]、第67位 [2004年]、第104位 [2005年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●「コンテッサ」が米国環境基準「GREENGUARD」取得 [2003年6月] ●CeMAT ASIA 2003 物流技術と運輸システムの展示会に出展 [2003年11月] ●EIMU 2004 ミラノ国際オフィス家具見本市に出展 [2004年4月] ●上海岡村家具物流設備有限公司設立 [2004年6月] ●ジェイティオカムラを山陽オカムラに社名変更し子会社化 [2004年9月] ●ORGATEC 2004に出展 [2004年10月] ●「オフィス進化論」出版 [2005年5月] ●シーダー（株）を子会社化 [2005年5月] ●創立60周年記念グレンミラーオーケストラコンサート開催 [2005年12月]
第5次環境 中期計画 2006年4月 ～ 2009年3月	<ul style="list-style-type: none"> ●木質材のグリーン購入法調達基準改訂に対応し、JOIFA（日本オフィス家具協会）より事業者認定を取得 [2006年9月] ●つくば事業所：焼却炉撤去 [2007年1月] ●追浜事業所：焼却炉撤去 [2007年2月] ●追浜事業所：メッキ設備解体、土壌浄化 [2007年3月] 	<ul style="list-style-type: none"> ●「2005環境経営報告書」が「第9回環境報告書賞」優良賞受賞 [2006年5月] ●「2006環境経営報告書」発行 [2006年6月] ●新聞広告媒体を使用し、環境経営報告書を配布 [2006年] ●サイドフォールドテーブル「インターアクトNT」が2007年度「iFデザイン賞」受賞 [2007年1月] ●「2006環境経営報告書」が「第10回環境コミュニケーション大賞」環境報告優秀賞を受賞 [2007年2月] ●環境経営度調査：95位 [2006年] 	<ul style="list-style-type: none"> ●鶴見事業所竣工 [2006年3月] ●全社員参加の創立60周年記念式典開催 [2006年7月] ●ORGATEC 2006に出展 [2006年10月] ●オフィスシーティング「ヴィスコンテ」シリーズ発表 [2006年11月] ●鶴見事業所竣工 [2006年12月] ●2007スーパーマーケットトレードショー出展 [2007年2月] ●「内部統制時代の文書・情報マネジメント」出版 [2007年3月]

第三者審査報告書




「CSRレポート2007 環境データ編」に対する独立第三者の審査報告書

平成19年6月22日

株式会社 岡村製作所
代表取締役社長 久松 一良 殿

あずさサステナビリティ株式会社
(あずさ監査法人グループ)
東京都新宿区津久戸町1番2号

代表取締役社長 大木 壮一 

取締役 魚住 隆太 
(公害防止管理者、環境計量士、公認会計士)

1. 審査目的及び対象範囲

当社は、株式会社 岡村製作所（以下、「会社」という。）が作成した「CSRレポート2007 環境データ編」（以下、「環境データ編」という。）について審査を行った。審査の目的は、環境データ編に記載されている、平成18年4月1日から平成19年3月31日までを対象とした、審査マークの付された環境パフォーマンス指標（以下、「指標」という。）が、会社の定める基準に従い、重要な点において、合理的に把握、集計、開示されているかについて結論を表明することである。

環境データ編の作成責任は会社の経営者にあり、当社の責任は独立した立場から指標の信頼性に関する結論を表明することにある。

2. 審査手続

当社の実施した主な手続は以下のとおりである。

- ・ 環境データ編の作成・開示方針についての質問
- ・ 指標に関して会社の定める基準の検討
- ・ 指標の把握方法及び集計フローについての質問並びに内部統制の整備・運用状況の評価
- ・ 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、サンプリングによる原始証憑との照合並びに再計算の実施
- ・ 一部サイトにおける現地審査
- ・ 指標の表示の妥当性に関する検討

当社の審査は、「環境報告書審査基準案」（平成16年3月 環境省）及び「環境情報審査実務指針」（平成18年1月 日本環境情報審査協会）に準拠して実施した。

3. 審査の結論

環境データ編に記載されている審査マークの付された指標が、会社の定める基準に従い、重要な点において、合理的に把握、集計、開示されていないと認められる事項は発見されなかった。

会社と当社または審査人との間には、環境報告書審査基準案に規定される利害関係はない。

以上

報告概要

報告範囲

- ・ 記述範囲：(株)岡村製作所および主要関係会社8社を中心に記述
- ・ データ集計範囲：(株)岡村製作所、(株)関西岡村製作所、(株)エヌエスコカムラ、(株)山陽オカムラ、(株)オカムラ物流、(株)オカムラサポートアンドサービス

報告期間


- ・ 2006年4月～2007年3月
- ・ ビジョンや一部の活動については、2007年4月以降の内容を含む

参考にしたガイドライン

- ・ 環境省「環境報告書ガイドライン2003年度版」
- ・ 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・ グローバル・リポーティング・イニシアティブ「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第2版」

発行

- ・ 2007年7月
- ・ 次回発行予定：2008年7月

 当レポートに記載された環境情報の信頼性に関して、日本環境情報審査協会（<http://www.jaoei.org/>）の定めた環境報告書審査・登録マーク付与基準を満たしているとして、このマークが付与されています。

審査 あずさサステナビリティ(株)により第三者審査を受けた項目です。

(株)岡村製作所 環境対策部
〒220-0004 横浜市西区北幸1-4-1 天理ビル19階

お問い合わせ・ご相談は◎お客様サービスセンターへ
フリーダイヤル ☎ 0120-81-9060
月曜～金曜(祝日を除く) 9:00～18:00